

## 9. 山口県の『たたら』遺跡

9.1. 山口県美祢市 河原上 たたら製鉄遺跡

9.2. 福栄村 大板山 たたら遺跡探訪



### 9.1. 山口県美祢市 河原上 たたら製鉄遺跡

1996.10.10



河原上製鉄遺跡



美祢市と秋芳町の境 たたら山 花尾山

秋の日差しの強い午後。兼ねてより聞いていた美祢市の北 花尾山へ登る。

この近辺は大理石・石炭だけでなく、銅などの金属鉱山が古くからあり、すぐ近所的美東・秋芳町との境には古い時代に「銭」を鑄造した場所も残っている。

また、この山の南の山の本奥のどん付には「たたら」の地名が 500 万分の 1 の地図に載っている。ひょっとして この地にも「たたら製鉄」の痕跡があるに違いない。

名水百選にも選ばれた花尾山の湧き水「別府池」のすぐ西隣の谷を川沿いに入ってゆく。

さらに、人家も途絶え、道も砂利道 ダムと池を過ぎ、杉林の中をどんどん林道をあがってゆく。

山道になって約 30 分。うっそうとした杉林の中、思いもかけず、山を背に幾段にも組まれた石垣の跡が見える。近くに谷川も見える。各地の沢筋でみた見た「たたら」の跡に近い。近づくと「河原上製鉄遺跡」の白い標識の杭が建っていました。美祿市と秋芳町の境の花尾山の南の山の中で、もう誰も住んでいない奥である。思いもかけずの 美祿でのたたら遺跡の出会いであった。

「かなな流し」の谷川もすぐ横にある。

おそらく そんな古い遺跡ではないが、しっかり、山の中に「たたら」場の遺構が残っている。明治・大正・昭和の初期まで、多くの人が行き来をした賑わいがこの山奥まであったに違いない。恐らく何年か前に発掘調査がきっちり行なわれたのであろうが、美祿の街で聞いた事がない。

今は全く山の中に打ち捨てられ、完全に賑わいの在った事も製鉄遺跡があることも完全に忘れられている。「たたら製鉄遺跡」は、どこもそうだが、本当に山奥の奥 かつての賑わいが信じられない場所に大きなたたらの集落が形成されていた。

それが、置き去りにされ、忘れ去られるか、または 開発の波に根底から掘り返され、跡形もなくなってしまうかしているのが、現状。鉄の生産には多くの人に関わり、出来たものが遠くに運ばれたに違いない。それは弥生時代から連綿と続く「人の流れ・文化の流れ」であり、華やかな往来と賑わいがあったに違いない。

今 ここに立ってもまったくそれはわからないが、..... 「たたら」は間違いなくその証人といえる。



1996.10.10. 美祿にて 中西睦夫

## 9.2. 山口県 福栄村 大板山たたら遺跡

隠れキリシタンの里のさらに山奥の「隠れたたら」

1993.10.17. By M.Nakanishi



1993.10.17. 平成5年 10月17日

1993年の秋 新聞に掲載された記事から、山口県と島根県の県境に近い福栄村の山中に「たたら遺跡」があることを知りました。

山口県は山又山で、私の住んでいた美祢市も丁度日本海と瀬戸内海との真ん中の山の中の盆地なのですが、そこから秋吉台の山を越え、そこから日本海の海岸沿いに島根県益田へ続く低い山並が延々と続く。

この山並の北側 日本海側には 萩 須崎などわずかに海岸沿いの平地があるが、リアス式の海岸がつづく。地層が層状の断崖となって見られるフォルンフェルツもこの須崎の海岸にある。

また、一方 この山塊の南側と中国山地主稜線の山並の間にはさまれて山口から徳地・津和野へと続く狭い平野がある。日本海とこの狭い平地の間にはさまれた低い山並に点々と旭村・川上村・福栄村・むつみ村・阿武町への山村がつながる。



むつみ村鍛冶屋の交差点・キリシタンの隠れ里・大板たたら遺跡への山合いの道

萩市に流れ注ぐ阿武川沿いに阿武川ダムへ遡り、奥長門峡を越えてゆくと福栄村に入る。途中 むつみ村の山間の交差点には「鍛冶屋」の地名があり、最近まで鍛冶屋が会ったという。

瀬戸内・山口市側からも 日本海・萩から福栄村に入るにはどこからも人里端なれた山地を越えてゆかねばならない。北に萩 南西に山口 東に津和野の街を控え、山によって隔絶された土地で 古くは平家の落人伝説 迫害を受けたキリシタンの隠れ里という。実際交通の良い瀬戸内海側や美祢から行くと山又山を越えて越えてのところであるが、山に囲まれた明るい台地が広がっている。



この福栄村を縦貫して流れる大井川を遡って その水源近く人の気配の全く無い山中 鬱蒼とした森に包まれた山裾に「大板山たたら遺跡」がある。

又、この遺跡にいたる途中明るい田圃が広がる台地の集落「紫福」は迫害を受けたキリシタンの隠れ里と言われ、『キリシタンの理想境「至福」の地』からこの来ているといわれる。

#### キリシタンの隠れ里 福栄村「紫福」

山口のキリシタンといえば明治の初め津和野の乙女峠で殉教した 36 人の信徒が思い浮かぶが、山口は戦国時代キリシタン大名として栄華を誇った大内氏の領地であり、津和野・山口に近い隠れ里であるこの山間の台地には、あちこちにキリシタンの痕跡がある。「紫福」もそんな土地。萩や防府・長府の城下から遠く離れ、山又山を越えて隠れ住んだ土地であったろう。山又山の中で見つけた明るい台地そんな気持ちが「紫福」の名の中に込められているような気がする。

この至福の集落を抜け 大井川に遡ってゆく。全く人家が無くなり、この大井川の支流 山の口川に沿って車で 15 分程遡ってゆくとダムサイトに出る。ここから先はダム湖に沿ってガタガタの石ころ道誰もいない道をさらに山奥へ詰めた突き当りの所に駐車場があり、「大板山たたら遺跡」の看板 少し、山の中に分け入った林の中に大きな石碑がありました。



#### 大板山製鉄遺跡への入口 山の口ダム湖

このダムの水の中に大板山たたら山内の半分が水没している

山の斜面につけられた小道を上ってゆくとその両側に遺跡発掘調査中のビニールシートがかぶせられ、かつてのたたら場三内跡が広がり、その所と頃にたたら屋敷・高殿・炭焼場・鉄池などの名称の小さい札がつけられ、高殿へ登ってゆく脇には地位さな沢の流れがありました。

ほぼ他の場所のたたら場遺跡と同じような状況で林の中にひっそりと覆われていました。

山肌をなでながら林の中を吹き抜ける風のざわめきと沢を流れる水の音そして 時折、甲高い鳥の音がこだまする。自然の中の真っ只中。

後日 わかったのだが、この製鉄遺跡は江戸時代 萩藩の隠密が発見した津和野藩の「隠したらら」という。 この大板山に砂鉄無く、日本海側の港から砂鉄を運び、豊富なこの山の木炭で「たたら吹き」を行なったという。

本当に深い山中に隠れるように存在した理由がこれで納得。

「隠れ山のたたら場 ここで一人取り残されたら大変」の印象とともに、「このたたら遺跡も調査が終われば そのまま 誰も行かず、 また朽ち果て 自然の中にうずもれるのだろうなあ……。ダム湖の紅葉とともにこのたたら場が整備されればいいのだが……。 」と思いつつ、この遺跡を後にしたのを覚えています。

隠れ里の山奥に隠されたたたら場遺跡 それが「大板山たたら」でした。



【発掘調査中の大板山たたら製鉄遺跡 1993.10.17.】



今年 福栄村のインターネットホームページにこの「大板山たたら遺跡」が紹介されているのを見つけ、丁度訪問していた時はこの遺跡整備の為の発掘調査中であり、今はダムサイトに隣接したたたら遺跡公園に整備されている事を知りました。是非 再度訪問しようと思っています。

2001.12.23. 福栄村 大板山たたら遺跡をまとめつつ

## 「大板山たたら製鉄遺跡 概略」

『福栄村 大板山製鉄遺跡』インターネット ホームページ

<http://www.joho-yamaguchi.or.jp/fukuesho/kanko16.html> より

山ノ口川上流に存在する江戸時代の製鉄遺跡。

「砂鉄七里に炭三里」と言われ燃料の木炭を豊富に生産できる大板山に立地し、また、砂鉄は島根県の三隅町から北前船を利用し、奈古港経由で搬入した。

この遺跡での操業の時期は、江戸時代の宝暦年間(1751～64)、文化年間(1803～18)、安政年間(1854～60)の大きく3期にわたっています。このうち最後の安政年間の建物跡などが現在整備されています。山内と呼ばれる製鉄所には、製鉄炉のある建物(高殿)、事務所(元小屋)、鉄の脱炭加工場(鍛冶屋)、職人の住宅(下小屋)などの諸施設が設置されており全体が柵などで囲まれていました。

この遺跡の存在は萩藩が文化13年に津和野藩にはなった産業スパイの報告書でわかりました。

また、幕末安政年間の操業では萩藩が建造した軍艦庚申丸の原料鉄はここで作られました。

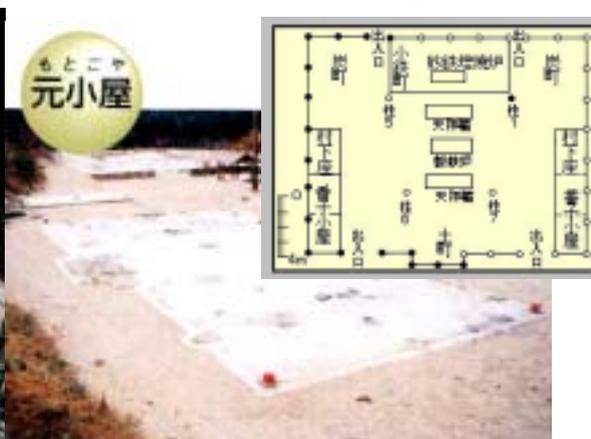
現在では、山の口ダムの建設によりたたら製鉄遺跡三内の南半分が水没しており、高殿や元小屋のある北半分のみが保存されています。

平成2年度から平成4年度の3ヶ年間で遺跡の発掘調査及び保存整備計画策定を行ない、平成5年度から平成7年度の3ヶ年で保存整備工事を施工。

安政年間に操業した建物跡を中心に下記の遺構を保存整備。

高殿敷地の護岸、鉄池、元小屋、砂鉄洗場、高殿、小鍛冶屋、米蔵、庭園及び周辺施設等を整備し、総合説明板、施設の名称や内容を詳細に記入した説明板及び案内板を設置しました。

### 【整備された 大板山たたら製鉄遺跡 2001.12.23. インターネットより】



たたら炉跡



天秤鞆跡復元



鉄池